

## ESGへの取組み

国際社会の貧困・飢餓や紛争、環境破壊や災害など世界で起こっているさまざまな課題に対して、「誰一人取り残さない社会」の実現のため持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて取り組む市民団体・非営利団体を支援することは、JICSのESGの取組みの一つと位置付けています。



## 2021年度採択団体 活動報告の紹介

JICSが支援したNGO・NPO団体の事業を紹介します。

**特定非営利活動法人 DAREDEMO HERO**

〒662-0051 兵庫県西宮市羽衣町7-30 夙川グリーンタウン3F  
Email: info@daredemohero.com HP: https://daredemohero.com/




**実施プロジェクト名** フィリピン・セブ島 最貧困層の子どもたちにコロナ禍でも学ぶ機会を提供する事業

**対象国** フィリピン

**プロジェクト概要**

フィリピン・セブ島の最貧困地区に設置したラーニングセンターを存続し、コロナ禍で学ぶ機会を失った子どもたちに、最低限の栄養と学びの機会を与え、貧困の連鎖を断ち切るための支援を行います。

**SDGsに向けての今後の活動**

引き続き、貧困問題の根本解決のために貧困層の子どもからやる気と志のある子どもたちに大学卒業までの徹底した教育支援を行い、未来のリーダーを育成する奨学生制度を維持・拡大していきます。加えて、最貧困層の子どもたちの学びの場となるラーニングセンターの運営・継続、健康的な食事について学ぶ栄養改善事業、女性の自立支援事業を推進していきます。2021年末の台風で壊滅的被害を受けたセブ市山岳部の零細農家支援事業についても、コミュニティで種子を保全・管理するシードライブラリの創設や有機統合農業の導入促進なども進めていく予定です。

**プロジェクト内容と成果**

新型コロナウイルス感染症の影響により、世界最長期間のロックダウン措置が取られ、そのコロナ禍で学ぶ場所を失った最貧困層の子どもたちに対し、学びの場所を提供し続け、健康状態を少しでも改善し勉強に専念できるように事業を実施しました。フィリピン・セブ市内にて最貧困地区3ヶ所でのラーニングセンターの運営を継続し、増員並びに新規開設、最貧困地区の未来をリードする人材を育成するため、ロックダウン終了後の復学支援、別プロジェクトで支援をしている奨学生との交流、受益者家庭における食事の内容改善による健康増進を行いました。




**特定非営利活動法人 胃癌を撲滅する会**

〒179-0075 東京都練馬区高松1-42-20  
Email: higan.npo@gmail.com HP: www.higan-npo.com




**実施プロジェクト名** ラオスにおける消化器専門医の育成

**対象国** ラオス

**プロジェクト概要**

ラオス癌センターミタバブ病院の癌治療成績向上を目指し、消化器 関連癌の発見治療予防のための医療技術を提供する。

**SDGsに向けての今後の活動**

すべての人に健康と福祉を提供していくために、まず、ラオスの胃癌に焦点を当て、今後も現地医師らの消化器内視鏡技術の向上をハンズオンや、インターネットカンファレンスを通じて支えていきたいです。その結果、現地の医師らの診断治療能力が向上すれば、一時的な派遣による外国人医師が治療を行うより、より多くの現地の患者を救うことに結びつきます。同時に彼らが現地の後輩にその技術を伝授していき、技術が国内で広まることを期待しています。

**プロジェクト内容と成果**

2022年は首都にある三主病院(ミタバブ、セタテイラート、マホット)を訪問し、現状確認の後、約20名の医師と看護師にハンズオンにて胃癌発見のための内視鏡手技を伝授しました。癌センターには内視鏡練習モデルを設置し若年医師がモデルで練習ができる体制を整えました。また内視鏡のための e-learning の提供を行うと同時に九州大学アジア遠隔医療開発センターを介し、2回のインターネットカンファレンスを行い、ピロリ菌講義、早期胃癌診断セミナーを開催しました。




## 一般財団法人アフリカ野球ソフト振興機構(J-ABS)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-3-13 西新宿水間ビル6階  
Email: info@j-absf.org HP: https://j-absf.org



実施プロジェクト名 2022年第10回タンザニア甲子園大会 指導能力・大会運営能力強化事業

対象国 タンザニア

### プロジェクト概要

J-ABSが取り組む「アフリカ55甲子園プロジェクト」のタンザニアにおける事業一環として「人づくり野球教育セミナーの実施」及び「審判員とスコアラーの養成」を行う。

### プロジェクト内容と成果

J-ABSの軸事業である「アフリカ55甲子園プロジェクト」は、①競技環境の整備、②ベースボールシップ(人づくり野球)教育の教育方法の普及、③全国大会の開催支援の3つの実施項目がある。2022年12月の事業では、②として「人づくり野球教育セミナー」を開催し、基礎コース40人、実践ワークショップ30人が参加しました。「人づくり野球指導者の資格認定制度」も導入し、検定試験に30人が受講し、10人が合格した。また、③として「審判員とスコアラークリニック」を開催し、スコアラー4人、審判員5人を養成しました。

### SDGsに向けての今後の活動

J-ABSはSDGsの7つの目標(1,3,4,5,10,16,17)取り組んでいる。野球を通じた人材育成の手法を広げるために、今後も広くアフリカにJ-ABSの軸事業である「アフリカ55甲子園プロジェクト」を展開していくにあたり、まずはタンザニアで成功モデルを確立することを当面の活動目標としています。続いて、東西アフリカ主要国である西のナイジェリア、ガーナ、ベナン、東のケニア、南スーダンにすでに事業を開始しており、タンザニアの事例を模範展開していく予定です。



## 特定非営利活動法人栄養不良対策行動ネットワーク(NAM)

〒164-0002 東京都中野区上高田1-21-1  
Email: watanabe.koichiro@nam.or.jp HP: https://www.networkforactionagainstmalnutrition.com/



実施プロジェクト名 ウガンダ国ビディビディ栄養改善プロジェクト

対象国 ウガンダ

### プロジェクト概要

西ナイル州ユンベ地区ビディビディ難民キャンプにおいて対象地域の関係者、リーダー、母親の栄養と乳幼児育児ケアの意識・知識を改善を目的に、母親グループを組織して現地の実情に適した指導活動を行う。

### プロジェクト内容と成果

調査を通して地域の実情に合った育児ケアの指導内容(母乳育児、乳幼児補完食、衛生、など)を明らかにし、これを教材として行動変容活動に活用した。また、地域の関係者(ボランティア、コミュニティリーダー)への研修を行い、彼らと共同して栄養不良の子どもをもつ母親をグループ化し、グループに対する調理実習や世帯訪問などの育児指導を効果的に行うことで、育児方法と栄養状態の改善を促しました。

### SDGsに向けての今後の活動

本事業の成果が地域の関係機関に共有され、より広域に展開されるための協議が進展した結果、2023年新たにビディビディ難民居住区内の別のゾーンにおいて本事業がJICA草の根事業により拡大展開されています。事業の実施に当たっては、本事業から得られた教訓(例として、パートナー団体の事業管理支援の行い方や、栄養回復レシピの内容、など)からの学びを生かした実施手法の改善を行っています。また、西ナイル州アジュマニ地区において栄養だけでなく農業や生計支援を含むマルチセクター連携栄養支援のプロジェクトを3年間の予定で開始します。



## 特定非営利法人 エクアドルの子どものための友人の会(SANE)

〒357-0006 埼玉県飯能市中山493-10  
Email: info@sanejapan.org http://sanejapan.org



実施プロジェクト名 エクアドル共和国での教育支援の活動を安定的に実施、継続できるような国内体制の強化

対象国 日本(基盤強化事業)

### プロジェクト概要

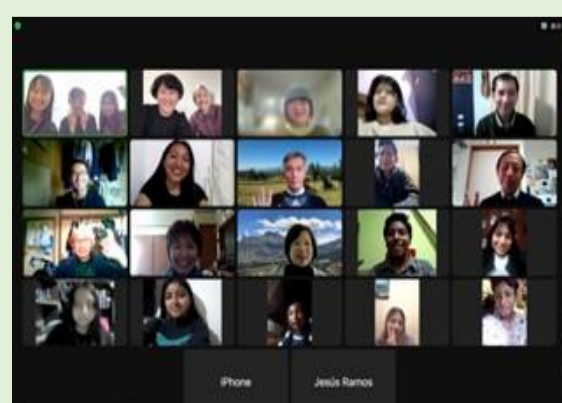
事業3年目となる本事業も、事務局活動を充実させ、業務交代可能な安定的な体制に変えていく。会員、寄付、助成金獲得に向け活動を強化し、継続的に活動場所を確保する。

### プロジェクト内容と成果

サネは34年間、個人ボランティアに依拠して活動を続けてきましたが、特定の個人に集中した業務形態を脱して、みんなで関わることでできる交代可能な組織づくりを目指した国内基盤強化を行ってきました。具体的には、1.必要な資金の確保、2.資金管理体制の確立、3.発信力の強化、4.事務所確保と事務局体制の確立に取り組み、2022年は、すべてにおいて成果を上げることができました。また、特に経理分野の資料を公的に認められるレベルまで整えることによって、認定NPOを取得することができました。

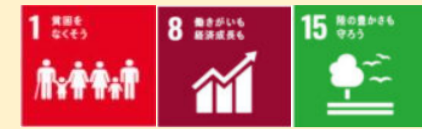
### SDGsに向けての今後の活動

会全体としては、サネの目的であるエクアドル人の自立のために、奨学生事業と教育環境改善事業(植林、菜園、食の改善)において現地の人々の主体性を重視し持続可能な事業運営を行っていくことを第一の課題として取り組みます。また、国内においては、会の国際的な経験とつながりを活かしてSDGsを普及していくための活動として、特に子ども達を対象にした活動(はんのうSDGsクラブの結成)を地域の他団体と共に行っていきます。



## 認定NPO法人 UAPACAA国際保全パートナーズ

〒240-0113 神奈川県三浦郡葉山町長柄1461番地の136 ファミール葉山202号  
Email: admin@uapacaa.org HP: https://www.uapacaa.org/



実施プロジェクト名

インターンシップを活用した自然保護分野における国際協力人材育成と組織基盤強化

対象国

日本(基盤強化事業)

プロジェクト概要

途上国における生物多様性保全とコミュニティの持続可能な開発を推進する、自然科学的バックグラウンドを持った実務家を育て、同時にプロジェクト資金調達にも貢献することで組織が安定する。

プロジェクト内容と成果

当法人理事の協力を得て、自然科学的バックグラウンドを持った若手人材(インターン生)を、通年で確保しました。また、後期には正会員の中から志願があり、当法人のSNS(IG、FB及びTwitter)発信を担当する若手プロボノの、広報活動への参画を得ることができました。この布陣で、岡安が2022年9月に2年半ぶりに現地視察を行いました。カメルーン・ロベケ国立公園の現状改善資金を募る、冬の緊急クラウドファンディングを実施。また当法人独自の呼び掛けも行なったところ、目標額を上回る資金調達を達成することができました。

SDGsに向けての今後の活動

当法人の活動の目的は、定款にも定めるように「アフリカやアジアの生物多様性保全上の重要地に対して、自然保護活動を推進するための技術的・資金的支援に関する事業を行い、地球環境の保全に寄与すること」です。現在、推進しているカメルーン・コンゴ民主共和国・ブータンの現場の自然保護活動を継続し、野生動物保護と地域住民の持続可能な開発の両立を目指すことによって、貧困削減や陸域生態系の保護といったSDGs達成に直接、貢献していきます。



## 特定非営利活動法人関西NGO協議会

〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30. 大阪聖パウロ教会4階  
Email: knc@kansaingo.net HP: https://kansaingo.net/



実施プロジェクト名

ネットワークNGOの若手職員育成を通じた、次世代と地域を巻き込む連携強化事業

対象国

日本(基盤強化事業)

プロジェクト概要

職員の育成を通じて他セクターやユース世代との連携を強化し、普及啓発事業の運営安定化と継続開催を目指す。前年度の経験を活かし蓄積することで、組織基盤強化に繋げる。

プロジェクト内容と成果

①当会実施の普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバルfor Youth」の継続性担保、②育成対象職員の事業管理・推進能力向上、③組織としての業務効率向上  
上記3点の課題に取り組みました。当該職員としては、准認定ファンドレイザー資格取得、当該事業の資金集めへの従事、他地域のネットワークNGOへの訪問と連携強化を主に実施しました。人脈拡大や経験の蓄積が能力向上に繋がり、組織全体の効率性向上にも繋がっています。  
組織としては、同職員が中心となりSales Forceを導入し、管理業務等の効率が上がっています。

SDGsに向けての今後の活動

SDGs達成の可否やその後の社会・世界の行方に大きく関わるユース世代の育成という観点からも、社会課題に関心のある高校生が一步を踏み出す場として、今後もワン・ワールド・フェスティバルfor Youthを継続して開催していきます。  
また市民社会全体のプレゼンスや能力の向上のために、育成対象であった職員を含め、当会が地域のネットワークNGOとして、今後も市民社会におけるネットワークを、分野や地域を問わず拡大・強化していくことが、市民社会がSDGs達成のために大きな役割を果たすことに繋がると考えています。



## 特定非営利活動法人Little Bees International

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-40-22  
Email: littlebees@littlebeesinternational.org HP: https://www.littlebeesinternational.org/



実施プロジェクト名

連携構築によるコロゴッチョスラムの子どもたちの教育・健康支援事業

対象国

ケニア

プロジェクト概要

コロゴッチョスラムの学校6校の連携により、子供たちが取り残されることなく、健康で安心な生活環境の中で質の高い教育を享受できる体制を他団体と協働で構築する。

プロジェクト内容と成果

コロゴッチョスラムの6校のコミュニティスクールの横のつながりを強化することで、子どもたちの教育のセーフティネットの創出を目指した活動になります。教科書の配布や給食でのオーガニック食品の提供を通じた食育活動、教育の質をあげるための泊まり込みでの6校の合同での教員研修、心のケアのためのコンサルテーション、HIVを含め子どもたちの感染症予防対策や保健クラブ活動、進学した子どもたちの奨学支援等を通じて、コロゴッチョの教育環境は確実に向上しています。

SDGsに向けての今後の活動

1年目の活動成果に基づいて、2年目の活動も力強くその歩みを進めています。各学校における教育環境の整備はもちろん、教員同士の交換派遣や合同授業の実施など、様々な形の協働が継続的に行われています。主食の大豆や有機農法による野菜や果物の提供により子どもたちも日々、よく食べよく学び元気に過ごしています。ケニア政府が新しく進めるジュニアセカンダリー(中学校)制度には、まだまだ現場レベルでは取り組まなくてはならないことが沢山ありますが、今期もSDGsの達成に向けて着実な活動を積み重ねて参ります。

